

財団法人 堀江オルゴール博物館通信

第 25 号 2011 年 6 月 20 日発行 文責 福岡 中田

〒662-0088 兵庫県西宮市苦楽園 4 番町 7-1

TEL.0798-70-0656(ナレオルゴール) FAX.0798-72-0110

<http://www.orgel-horie.or.jp/> Email info@orgel-horie.or.jp



自動ピアノ I ～ロール紙による自動ピアノ～

自動ピアノの起源は、19 世紀のバレルピアノにさかのぼります。バレル…巨大な筒のようなもので、樽という意味があります…に植えられた無数のピンがハンマーをはじいて、音が鳴る仕掛けです。しかしこれには、バレルにピンを植えるのが大変、バレルの交換が難しい、演奏時間が短いなど、多くの弱点がありました。そこで登場したのが、ブック式自動ピアノです。ブックの穴からハンマーが飛び出し、弦を叩いて音を出します。これらの自動ピアノは、当時、王侯貴族などいわゆる「お金持ち」の愛玩物であったピアノが、広く一般市民に届くきっかけを作りました。しかし、バレル・ブック式にかわる、新たな「ロール紙方式」の自動ピアノの出現によって、たちまち姿を消してしまいます。

バレル式・ブック式にかわり活躍したロール紙方式の自動ピアノは、ロール紙に空けた穴を通った空気がハンマーを押すことによって、ピアノの音を鳴らすという仕組みでした。ロール紙方式にも様々な改良が加えられ、当初は付属のペダルを人力で踏むことによって作られていた空気も、直にモーターなどの電力で賄われるようになります。しかし、バレル・ブック式からロール紙方式へという大きな変遷を経てなお、自動ピアノは「強弱やペダリングを無視した人工的な演奏」という弱点を克服出来ずにいました。つまり、あたかも人間が弾いているかのような、表現豊かな演奏ができなかったのです。しかし 1904 年、遂にこれを可能にする自動ピアノがドイツで発表されます。それがエドウィン・ウェルテと義兄カール・ボキッシュによる「ウェルテ・ミニヨン」でした。

「ウェルテ・ミニヨン」をはじめとするこの画期的な自動ピアノの一群は、リプロデュースピアノ（再生ピアノ）と呼ばれます。リプロデュースピアノは、ピアニストの演奏をそのまま忠実にロール紙へ記録し、再生できるというものでした。会社によって録音装置の構造は異なり、演奏をどのように記録するかという原理を理解することは容易ではありません。しかし重要なことは、それまで自動演奏楽器と直接的には無関係であった演奏家の存在が、この自動ピアノでは不可欠になったこと、更に、その芸術的な音色が演奏家たちに驚きをもって受け入れられ、自らの演奏を後世に残す手段として喜んで選ばれたことです。今なお、ドビュッシーやガーシュウィンをはじめとする、当時の著名なピアニストや作曲家の貴重な演奏が、リプロデュースピアノを通して伝えられています。しかし 1930 年代に入り、より手軽で安価な蓄音機やラジオが普及し始めると、リプロデュースピアノは衰退の一途をたどり、現在では非常に稀有な存在となってしまいました。しかし、「生の音」を再現できるという点において、誕生から 100 年以上が経った今でも、リプロデュースピアノは究極の音楽複製技術であり続けていると言えるでしょう。

参考文献「楽器の辞典 ピアノ」東京音楽社

2011年夏のプログラムご案内

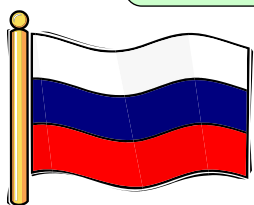
テーマ「映画音楽とからくり人形」

7月1日(金)～9月30日(金) 休館 月曜日
但し8月22日(月)～9月2日(金)は夏期休館です。

*一般の方(1名様～19名様)の案内は木曜～日曜、祝日です。

宮崎駿さんの映画やアメリカ映画の中で使われた曲をディスクオルゴールでお楽しみ下さい。シリンダーオルゴールは見て楽しいオーケストラボックス(蝶々がベルを打ったり、ドラム、カスタネットが鳴り出す)を演奏します。また、当館が所有している全てのからくり人形を動かします。

特別演奏会のお知らせ



ロマノフ家のオルゴールとその時代の華やかな音楽

7月15日(金) 16日(土) 17日(日) 18日(月 祝)

各日 午後3時より 本館1階で1時間の演奏会

帝政ロシア最後の皇帝ニコライⅡ世のオルゴールと、ニコライⅡ世が愛妻に贈ったオルゴールを演奏します。また、同時代の華やかな曲が収録された他のオルゴールもお楽しみ下さいませ。



オルゴール博物館ニュース



6月6日に苦楽園小学校3年生の探検隊がオルゴール館に来てくれました。手廻しオルガンを廻したり、オルゴールについての話を聞いて、何か新しい発見はあったかな？

6月11日に東日本大震災で西宮市に避難されている方々が当館を訪れ、東の間の楽しい時間を過ごされました。被災地の日も早い復興をお祈り申し上げます。